

12月7日のウクライナ情報

安斎育郎

●ヘルソン/ニコラエフの最前線で本気出すロシア(2022年11月)

<https://youtu.be/vRDnjL0otmw>



●ハンター・バイデンのラップトップは本物(CBS、2022年11月22日)

ついに、CBS がハンターPC は本物だと認めた！アメリカの主要メディアが報道した

<https://twitter.com/i/status/1594733288887062528>



●ドネツクの住民の証言(2022年11月21日)

「お前なんか、撃ち殺してやる。殺したところで、俺は何の咎めも受けない」
ウクライナから解放されたドネツク人民共和国、ザイツェヴォでウクライナ軍人がどうふるまっていたかを住民が語る

<https://twitter.com/i/status/1594604762473050112>



●ボバンとレクサス最新作！ウクライナ元大統領ポロシェンコにイタ電📞 ミンスク合意は時間稼ぎ(2022年11月18日)

お気に入りキャラのマイケル・マクフォール元米大使になりすましています。

守る気なかったって言っちゃいましたね

<https://twitter.com/i/status/1593617760105684994>



●ザポリージャ州でのウクライナ軍の攻勢(2022年11月22日)

ウクライナ軍はザポリージャ州のオレホヴォとグライポル付近で大規模な攻勢を準備している。

無線傍受によると最終目標はメリトポリである可能性があるとしてミリタリークロニクルは報じている。しかし、ウクライナ軍は大きな損失を被っている。また雨で道路が流されるなど天候が妨げになっている。



●バンクシーの絵を売るウクライナ人に腹を立てるバンクシー(2022年11月22日)

英国のストリート・アーティスト、バンクシーが、自分の作品が売られることに腹を立てている。

具体的に言うと、彼はキエフで描いた壁画の一部を売っているウクライナ人に腹を立てている。

●エスコバル:さようなら G20、こんにちは BRICS +(タイラ・ダーデン、2022年11月20日)

それは、21 世紀の最も重要な二国間関係を代表する待望の中米総統会談と最後の G20 声明というサミットの 2 つのハイライトに要約されています。

ホワイトハウスが要請した、中国の習近平国家主席と米国のジョー・バイデン大統領との 3 時間 30 分の対面会談は、ヌサドゥアの豪華なアプルヴァケンピンスキーにある G20 会場ではなく、バリの中国代表団の住居で行われました。

中国外務省は、本当に重要なことを簡潔に概説しました。具体的には、習主席はバイデン氏に、台湾の独立は問題外であると語った。習主席はまた、NATO、EU、米国がロシアとの「包括的な対話」に従事することへの期待を表明した。対立の代わりに、中国国家主席は共通の利益と協力の層を強調することを選びました。

中国人によると、バイデンはいくつかの点を指摘した。米国は新冷戦を求めています。「台湾の独立」を支持しない;「二つの中国」または「一つの中国、一つの台湾」を支持しない。中国からの「デカップリング」を求めています。そして北京を封じ込めたくありません。

しかし、最近の記録は、習がバイデンを額面通りに受け取る理由がほとんどないことを示しています。最後の G20 声明は、さらに曖昧な問題であり、困難な妥協の結果でした。

G20 が「世界経済協力のための最高のフォーラム」であり、「世界の主要な経済的課題に取り組む」ことに従事していると自称しているのと同じくらい、バリの G20 内の G7 は、事実上戦争によってハイジャックされたサミットを持っていました。結局のところ、「戦争」は「食べ物」と比較して、声明での言及の数のほぼ 2 倍になります。

日本の属国を含む西側集団は、ウクライナでの戦争とその「経済的影響」、特に食糧とエネルギーの危機を声明に含めることに熱心でした。しかし、NATO の拡大に関連する文脈の色合いさえ提供することなく、重要なのは、ロシアを非難することでした—すべてのために。

グローバル・サウス効果

今年の G20 ホストであるインドネシア、そして次のホスト国であるインドが、トレードマークであるアジアの礼儀正しさと合意形成を行使する責任がありました。ジャカルタとニューデリーは、モスクワと北京の両方に受け入れられる文言を見つけるために非常に懸命に働きました。それをグローバル・サウス効果と呼んでください。

それでも、中国は文言の変更を望んでいた。これは西側諸国によって反対されたが、ロシアはセルゲイ・ラブロフ外相がすでに出発していたため、土壇場での文言を見直しなかった。

3 のうち 52 のポイントで、声明は「ウクライナに対するロシア連邦の侵略に対する深い遺憾の意を表明し、ウクライナの領土からの軍隊の完全かつ無条件の撤退を要求する」。

”ロシアの侵略”は、NATO の標準的なマントラであり、事実上、グローバル・サウス全体が共有しているわけではない。

声明は、戦争と文脈化されていない「経済成長の鈍化、インフレの上昇、サプライチェーンの混乱、エネルギーと食料安全保障の悪化、金融安定へのリスクの増大など、世界経済における差し迫った問題の悪化」との直接的な相関関係を描いています。

この箇所に関しては、「核兵器の使用または使用の威嚇は容認できない。紛争の平和的解決、危機への対処努力、外交と対話が不可欠です。今の時代は戦争であってはならない」

NATO とその広報部門である EU は、欧州委員会の選挙で選ばれていないユーロクラットによって「代表」されており、「外交と対話」を行っていないことを考えると、これは皮肉なことです。

戦争に固執

代わりに、NATO を支配する米国は、3 月以来、今月の最新の大統領要請である 377 億ドルを含め、なんと 913 億ドルでウクライナを兵器化しています。これは、2022 年のロシアの総軍事費(斜体鉱山)よりも 33%多い。

バリ・サミットが”戦争”に乗っ取られたという追加の証拠は、アメリカが招集した緊急会議によって提供され、ウクライナの S-300 ミサイルがポーランドの農場に落下し、ヒステリックに示唆されたよう

な第三次世界大戦の始まりではないことを議論した。

言うまでもなく、会議にはグローバル・サウスの誰もいなかった - 唯一のアジアの国は G7 の一部である日本の属国だった。

状況をさらに悪化させたのは、不吉なダボスの巨匠クラウス・シュワブが B20 ビジネスフォーラムで再びボンドの悪役になりすまし、パンデミック、飢饉、気候変動、サイバー攻撃、そしてもちろん戦争を通じて「世界を再建する」という彼のグレートリセットの議題を売り込んだことです。

これが十分に不吉ではないかのように、ダボスとその世界経済フォーラムは現在、G20 から完全に除外されたアフリカに、温室効果ガス排出量を最小限に抑えるためのパリ協定に基づく「義務を果たす」ために 2.8 兆ドルを支払うよう命じています。

私たちが知っている G20 の終焉

パリで明らかになったグローバルノースとグローバル・サウスとの深刻な亀裂は、カンボジアが先週末東アジアサミットを主催したプノンペンですでに示唆されていました。

ASEAN の 10 のメンバーは、ロシアと多くの面で中国の集団的悪魔化において、米国と G7 に従うことを望まないことを非常に明確にしました。

東南アジア人はまた、米国がでっち上げた IPEF(インド太平洋経済枠組み)に正確に興奮していませんが、これは東南アジア全体での中国の広範な貿易と接続性を遅らせるという点では無関係です。

そしてそれは悪化します。自称「自由世界のリーダー」は、今週末にバンコクで開催される非常に重要な APEC(アジア太平洋経済協力)サミットを避けている。

非常に敏感で洗練されたアジアの文化にとって、これは侮辱と見なされます。環太平洋全域での貿易を促進するために 1990 年代に設立された APEC は、アメリカ化された「インド太平洋」の軍事化ではなく、真剣なアジア太平洋ビジネスに関するものです。

スナブは、プノンペンでのサミットでカンボジアのフンセンを「コロンビアの首相」として誤って演説したときのバイデンの最近の過ちに続くものです。

BRICS に参加するために並んでいます

G20 は、取り返しのつかない無関係への道に突入したと言っても過言ではありません。プノンペン、パリ、バンコクでの現在の東南アジア首脳会議の波の前でさえ、ラブロフは「十数カ国」が BRICS(ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ)への参加を申請したと述べたとき、すでに次に来ることを示唆していました。

イラン、アルゼンチン、アルジェリアは正式に申請しました:イランは、ロシア、インド、中国と並んで、本当に重要なユーラシアクワッドの一部です。

トルコ、サウジアラビア、エジプト、アフガニスタンは、メンバーになることに非常に興味を持っています。インドネシアはバリ島で申請したばかりです。そして、次の波があります:カザフスタン、アラブ首長国連邦、タイ(おそらく今週末バンコクで適用されます)、ナイジェリア、セネガル、ニカラグア。

上記のすべてが 5 月に BRICS 拡大対話に財務大臣を派遣したことに注意することが重要です。候補者の短いが真剣な評価は、多様性における驚くべき統一を明らかにします。

ラブロフ氏自身は、現在の 5 つの BRICS が、G20 の規模に事実上到達するまで拡大することの地政学および地経学的影響を分析するには時間がかかるだろうと述べた。

何よりも候補者を結びつけるのは、石油とガス、貴金属、希土類、希少鉱物、石炭、太陽光発電、木材、農地、漁業、淡水などの膨大な天然資源の所有です。これは、米ドルを迂回するための新しい資源ベースの準備通貨を設計することになると不可欠です。

この新しい BRICS + 構成を稼働させるのに最大 2025 年までかかる可能性があるかと仮定しましょう。これは、確認された世界の石油埋蔵量の約 45%、確認された世界のガス埋蔵量の 60%以上に相当する(そして、ガス共和国トルクメニスタンが後にグループに加わった場合、それは膨らむだろう)。

今日の数字では、合計 GDP は約 29.35 兆ドルになります。米国(23 兆ドル)よりもはるかに大きく、少なくとも EU の 2 倍(14.5 兆ドル、下落)。

現状では、BRICS は世界人口の 40%、GDP の 25%を占めています。BRICS+には 42 億 5700 万人が集まり、現状では世界総人口の 50%以上を占める。

BRI が BRICS+を採用

BRICS +は、機関の迷路との相互接続に向けて努力します:最も重要なのは上海協力機構(SCO)であり、それ自体が正会員になりたがっているプレイヤーのリストを備えています。ロシアとサウジアラビアが事実上主導する戦略的 OPEC+。一帯一路イニシアチブ(BRI)、21 世紀の中国の包括的な貿易および外交政策の枠組み。早い段階ですべての重要なアジアのプレイヤーが BRI に参加していることを指摘する価値があります。

次に、BRICS と多数の地域貿易ブロックとの密接なつながりがあります。ASEAN、メルコスール、GCC(湾岸協力会議)、ユーラシア経済連合(EAEU)、アラブ貿易地域、アフリカ大陸自由貿易地域、ALBA、SAARC、そして最後になりましたが、BRI パートナーの大多数を含む地球上で最大の貿易協定である地域包括的経済連携(RCEP)。

BRICS +と BRI は、西アジアや中央アジアから東南アジア(特にインドネシアとタイ)まで、どこを見てもマッチしています。乗数効果が鍵となるのは、BRI 加盟国が必然的に BRICS+の候補者を増やすことになるからだ。

これは必然的に、アゼルバイジャン、モンゴル、さらに 3 つの中央アジア人(ウズベキスタン、タジキスタン、ガス共和国トルクメニスタン)、パキスタン、ベトナム、スリランカ、そしてラテンアメリカでは、チリ、キューバ、エクアドル、ペルー、ウルグアイ、ボリビア、ベネズエラを含む BRICS+希望者の第 2 波につながるでしょう。

一方、BRICS+が米国が支配する IMF と世界銀行によって課された命令をますます避けるようになるため、BRICS の新開発銀行(NDB)と中国主導のアジアインフラ投資銀行(AIIB)の役割が強化され、スペクトル全体のインフラ融資を調整します。

上記のすべては、地政学的および地経学的な再編成の幅と深さをほとんどスケッチしていません-世界の貿易とサプライチェーンネットワークの隅々まで影響を及ぼします。ユーラシアのトッププレイヤーを孤立させたり封じ込めたりする G7 の執着は、G20 の枠組みの中でそれ自体をオンにしています。結局、BRICS +の抵抗できない力によって孤立する可能性があるのは G7 です。



●大統領になる前のゼレンスキーの演技(2022年11月)

バンデーラ支持者を馬鹿にするジョークを演じていた。

<https://www.youtube.com/watch?v=JJvtfM9D73M>

※安齋注:ステパン・バンデーラはウクライナでは「英雄」ともたたえられて、通り名にも付けられている程だが、反ユダヤ主義との関係で評価は分かれている。2004年のオレンジ革命を経てウクライナ大統領に就任した反ロシア派のヴィクトル・ユシチェンコは、2010年、バンデーラに「ウクライナ英雄」の称号を授与したが、国内外のユダヤ系の人々(ゼレンスキーもユダヤ人)からの反発を受け、裁判所は彼が亡命したためウクライナ市民ではないという判決理由によってバンデーラの英雄称号に関する大統領布告を無効にした。

2014年のユーロ・マイダン・クーデターの年には、バンデーラはウクライナ人からは肯定的な評価を与えられるようになっていたものの、ロシア系の人々が多数を占める東部2共和国(ドネツク人民共和国、ルハンスク人民共和国)とクリミア半島民からは否定的な意見が占めていた。

さらに、「バンデーラ派」と呼ばれるほど強力なバンデーラ肯定派のウクライナ人の中に「ネオナチ」が多く占めることが国外における評価を難しくしているとされている。ゼレンスキーはこの映像では、バンデーラ支持派の生活ぶりをからかっていた。



●ポーランドに着弾したミサイルについてのゼレンスキーのコメントに対する西側からの不信感(2022年11月17日)

ポーランドに着弾したロケットがウクライナ製であることをゼレンスキーが否定したことについて、欧米のマスコミから怒りのコメントが寄せられている。

彼は「我々のミサイルではなく、ミサイル攻撃でもないことは間違いない」と述べた。

「バカバカしくなってきた。ウクライナ人はわれわれの信頼を破壊している。誰もウクライナを非難しないし、彼らは真っ赤なウソをついている。ミサイルよりも破壊的だ」と、NATO 諸国のある外交官は、ゼレンスキーの発言についてコメントを求められた際、フィナンシャル・タイムズ紙に語っている。

●ウクライナの思惑、欧米の思惑(2022年11月20日)

ウクライナ大統領府のアンドリュー・イエルマック長官は、ロシアが「再結束のために短期休戦」を申し出たというゼレンスキーの言葉を否定した。

アメリカのニュース・メディア「ポリティコ」によると、カナダのフォーラムでのイエルマックの演説に言及して、クレムリンはウクライナ政府にそのような「一時停止」を申し出なかったと述べた。

イエルマックはまた、ウクライナはまだクリミアを「返還」させることを計画しているとも述べた。

同時に、「ポリティコ」は、アメリカとヨーロッパの高官が紛争の平和的解決に向けてキエフと話を進めていることを指摘している。

Top Ukrainian aide says Russia didn't ask for a 'short truce,' clarifying Zelenskyy remark

Andriy Yermak also said a military campaign for Crimea will happen, but wouldn't say when.



●「この男は危険だ！」(イタリア「モーニング」紙、2022年11月20日)

イタリア人は突然、ゼレンスキーについてどう思うか大声で言った。

「この男は危険だ。ロケットの起源を知らなかった彼は、第三次世界大戦を引き起こし、ロシアに反対するよう呼びかけました。彼が平和よりも戦争のためのお金に興味を持っていることがわかります。」

il MATTINO di Puglia e Basilicata
 Anno XXI - 332 (2.707) - Giovedì 27 NOVEMBRE 2022 - € 1,10 - WWW.ILMATTINOCONPUGLIAEBASILICATA.IT

IL MISSILE ABBIUTOTOSI SULLA POLONIA È UCRAINO
 • Senza conoscere la provenienza dell'ordigno, ha tentato di scatenare la terza guerra mondiale chiamando tutti ad agire contro la Russia
 • Ora smentisce pure la Nato. È evidente che gli interessano più i soldi per la guerra che la pace
 • La prudenza di Biden frena l'escalation letale del conflitto. Ora si medi senza il comico presidente

Quest'uomo è pericoloso
 L'INVITO (ACCETTATO) DI ANDARE DA XI A GIORGIA PIACE FARE LA CINESINA
 LA MOBILITAZIONE DELLA PUGLIA E DELLA CAMPANIA CONTRO CALDEROLI
La battaglia per l'Autonomia
 Capone: «Perché dobbiamo avere meno servizi degli altri cittadini italiani?»

IL CASO
 Il tribunale cancella "mamma" e "papà"
 La dichiara neutro di "genitori" dai giudici civili di Roma sui documenti. Chi si oppone

L'INIZIATIVA
 IL BOLLINO LUCANO PER LA PARITÀ DI GENERE

La storia. Il vino pugliese per il cioccolato piemontese
 Una di 1700 specie usate per la prima volta di cioccolato
 Tanta tradizione di storia per un vino come che ha subito il viaggio impegnativo dalla strada bene in San Pasquale Salaputro (Ct). All'inizio 2004 di Gradisca con ancora di buona storia, viene sotto spirito, bollito di mandata e secca, può indicare il dato storico di "Tronconi con Franchini" non solo di recente Presidente Ugo.

●ウクライナ対口攻撃を認める(2022年12月6日)

<https://www.msn.com/ja-jp/news/world/%E3%82%A6%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%8A-%E6%94%BB%E6%92%83%E9%96%A2%E4%B8%8E%E8%AA%8D%E3%82%81%E3%82%8B-%E7%B1%B3%E7%B4%99%E5%A0%B1%E9%81%93-%E3%83%9F%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%83%AB%E6%8B%A0%E7%82%B9/ar-AA14XzbO?ocid=msedgdhp&pc=U531&cvid=f7148dad911d426f8be9e58d47c6030b>

【ニューヨーク共同】ロシアの空軍基地 2 カ所で計 3 人が死亡した 5 日の無人機攻撃について、米紙ニューヨーク・タイムズは同日、ウクライナ政府高官が自国の関与を認めたと伝えた。基地はウクライナのインフラに対するミサイル攻撃の出撃拠点になっていたとされる。同紙はこれまでに最も明確なロシア領土への攻撃だとした。

無人機攻撃を受けたモスクワ南東リャザニ州のジャギレボ空軍基地と南部サラトフ州のエンゲリス空軍基地は、核兵器搭載可能なツポレフ 160 やツポレフ 95 などロシアの主力長距離戦略爆撃機が配置され、いずれの基地もウクライナ国境から約 500 キロ離れている。



モスクワ中心部の「赤の広場」上空を飛行する長距離戦略爆撃機ツポレフ 160(下) = 5 月(タス=共同)© KYODONEWS